


おかやまSDGsアワード～官学民連携によるSDGs達成に向けた優良取組の表彰～		取組開始時期	2020/04/01	取組の カテゴリ	地域活性化
1. 団体名	岡山市	2. 連携先の 団体	おかやま地域発展協議体おかやまSDGs研究会（岡山経済同友会、岡山商工会議所、倉敷商工会議所、岡山県、岡山市、倉敷市、真庭市、中国銀行、山陽新聞社、岡山大学）		
3. 取組目的	SDGs達成に向けた優良な取組を表彰することで、岡山を持続的発展のための挑戦をしていく人材が集まる、活力あふれる地域とすることを目指す。	4. 関連する ゴール			

5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）	
<p>（取組開始の経過）</p> <p>岡山市では、2015年から「ESD岡山アワード」（岡山市、ESD岡山アワード運営委員会両主催）を「岡山地域賞」（岡山地域のESD優良事例を顕彰）と、「グローバル賞」（世界のESD優良事例を顕彰）の2部門で実施している。一方、2016年に岡山地域の課題解決の方向性や具体的アクションを協議する場として、「おかやま地域発展協議体・おかやま円卓会議」が発足。岡山市、真庭市がSDGs未来都市に選定された（現在は西粟倉村、倉敷市を加えた4市村）ことも1つの契機として、2018年に「SDGs研究会」が立ち上がった。研究会として具体的な事業を模索する中で、岡山のSDGs達成に向けた優良事例を顕彰する案が浮上り、同じく岡山県内を対象としていた「ESD岡山アワード岡山地域賞」と統合させ、オール岡山の取り組みとして、2020年から「おかやまSDGsアワード」を実施することとなった。（次ページ「連携体制図」参照）</p>	
<p>（取組内容）</p> <p>2020年は、SDGs研究会主催として、8月～9月で県内の団体を対象に募集。75件の応募があった。12/19に優良事例（5件程度）を選考し、表彰式及びSDGsフォーラムを行う。賞金は1件5万円程度を想定。メディアも構成団体に含まれることから、優良事例を新聞等に掲載し、SDGs達成に向けた取組の拡大につなげていく。</p> <p>SDGsフォーラムでは、優良事例の発表、取組を始めるきっかけや苦心した点等掘り下げるパネルディスカッションを予定している。取組みを紹介したパネル展も同時開催。表彰式&SDGsフォーラムはオンライン中継でも視聴可能とする。</p>	
<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは初年度として75件の応募があったことは、岡山県民のSDGsに対する関心の高さであり、大きな成果と言える。 企業、市民団体、学校等の幅広い団体から応募があり、2005年以来ESDを推進してきた岡山市として誇れるものである。 特に企業からは45件の応募があり、企業のSDGsに取り組む積極的な姿勢が強く感じられた。 メディア（特に新聞）での取組紹介、SDGsフォーラムでのパネルディスカッションで取り組みの掘り下げ、パネル展開催等優良事例を幅広く紹介し、参考にしてもらうことで、新たにSDGs達成に向けた取組を行う団体等の増加や質の向上を期待している。 今後もアワードを継続して行い、岡山地域の活性化に繋げていきたい。 	



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

- 取組目的である「**岡山が持続的に発展していくため、人材を集め（育て）、活力ある地域としていく**」ことが、地方創生に貢献すると考えている。
- 応募してきた企業や団体等の取組をSDGsモデル事業として発信することにより、活動の活性化と連携促進を図る。

ステークホルダーとの連携

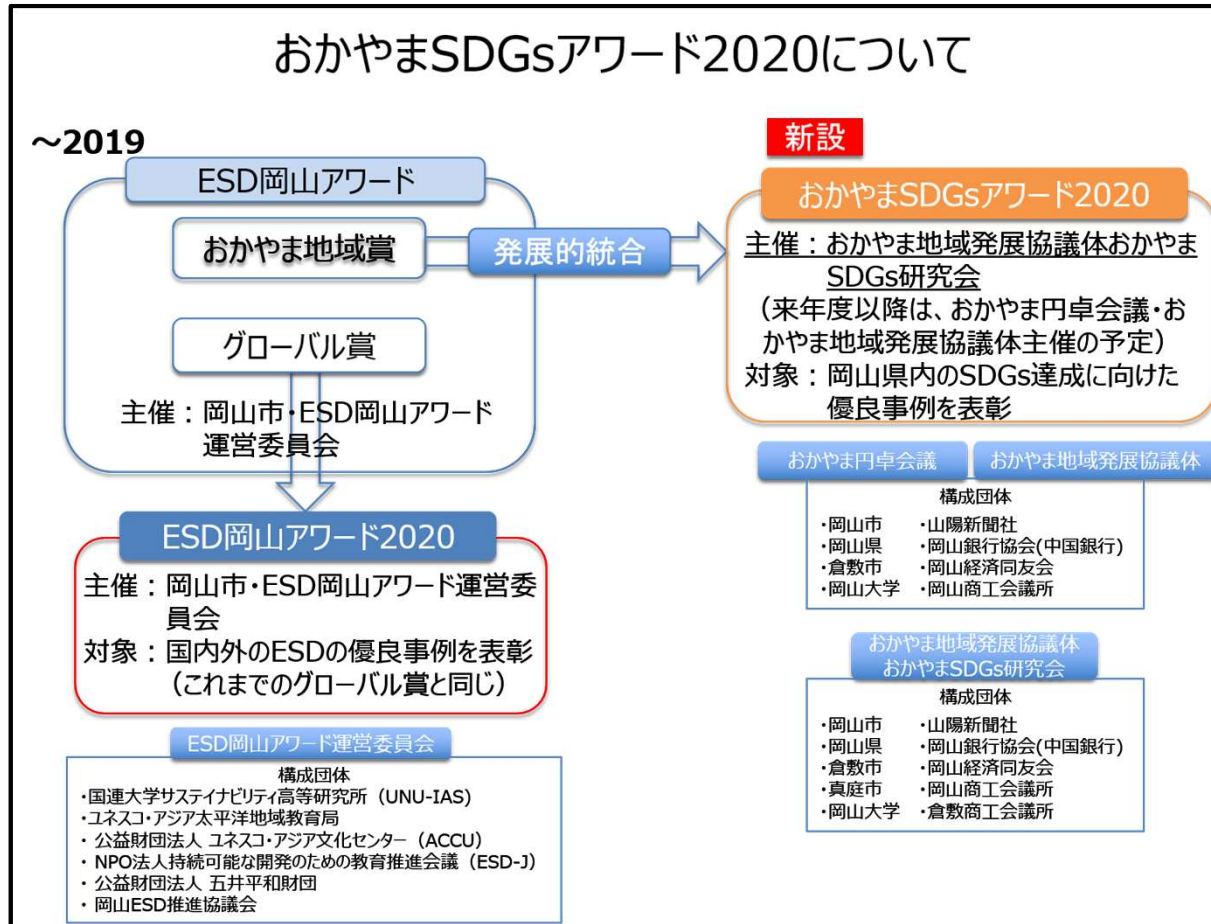
- 産官学が参加している既存のプラットフォームを活用することで、効率的に実施体制を構築した。
- 岡山県内で特に熱心にSDGsに取り組む岡山大学や岡山経済同友会、県内のSDGs未来都市等が中心となった連携組織**により主導する事業である。

モデル性・波及性

- アワード受賞を目指すことで、SDGs達成に向けた取組を行ううえでのモチベーションとなる。
- 優良な取組にスポットを当てることで、**SDGsを意識した活動のヒントが得られ、岡山県内各地域の団体等によるSDGs達成に向けた取組の増加や質の向上が期待できる。**

自由記述欄

○連携体制図



○連携先の団体からのコメント

(岡山経済同友会)

岡山経済同友会では、2017年の70周年を記念して、100周年を迎える世代に向けて「30年後の同胞へのメッセージ」を作成し、その中で持続可能な地域社会のあり方について提言をまとめた。

翌2018年に「SDGs研究・推進会議」を立ち上げ、SDGsの概念の研究、普及に向けた講演会やセミナー、勉強会や視察等を精力的に開催し、会員と共に理解と認識を深めてきた。

2020年3月に、2年間の活動をまとめた提言書「地域全体で取り組むSDGs先進県へ」を作成。5つの提言の1つとして「地域でのパートナーシップの確立」を挙げ、おかやまSDGsアワードの実現を提案した。今後も、SDGs先進県岡山を目指すため、岡山市をはじめ、県内各種団体との協働を深めていきたい。

(岡山大学)

本学は、榎野博史学長就任の2017年から「SDGs推進研究大学」であることを経営の中心に位置づけ活動し、2017年に本政府SDGsアワード特別賞を受賞した。本学は、地域課題を共に解決しWell-Beingを目指した共に創っていく「共創」をキーワードに地域と連携を深めていくことをミッションとしている。

岡山市においては、ESD(持続可能な開発のための教育)を推進しており、既に本学と岡山市とは密接な連携を図って活動している。

この岡山市との連携を含め、岡山地域全体で産官学金言による地域連携プラットフォーム「おかやま円卓会議」・「おかやま地域発展協議体」を各構成団体の協力により構築し連携を深め活動していることが土台となり、ALL岡山で速やかに「おかやまSDGsアワード2020」の実施が可能となった。

岡山市を含めたこの地域連携を核とし、岡山地域で行われる多様なSDGsの取組が新たな連携に結びつき、取組が深化・拡大することにより岡山地域の活性化に資するものとなるよう引き続き連携し活動を推進する。

○2030年までに目指すべきゴールイメージやありたい姿

目的である「岡山を持続的な発展のための挑戦をしていく人材が集まる、活力あふれる地域とする」ことを目指す。アワードとしては応募件数の増加と、特徴ある優秀な取り組みの増加を期待する。

アワードは少なくとも数年は継続し、岡山地域のSDGs達成に向けた取組を拡大していく役割を担う。その後2030年に向けては、形を変えて継続するなど、あり方を検討していく予定。

○ホームページ

おかやま地域発展協議体HP

<http://okayama-association.jp/>

